

令和3年度病害虫発生予察 特殊報第1号

令和3年11月18日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

1 害虫名 和名：キクビスカシバ（チョウ目スカシバガ科）
学名：*Nokona feralis* (Leech)

2 発生作物 キウイフルーツ（ヘイワード）

3 発生経過

令和3年7月に県東部地域のキウイフルーツにおいて、二年生枝の基部からフラス（虫糞）が発生する被害が確認され、被害部にはチョウ目幼虫が発見された（図5）。幼虫の形態や被害状況から、キクビスカシバであることが疑われたため、9月上旬に性フェロモントラップ※を設置し、誘殺された成虫（図6）を鳥取大学農学部中准教授に同定依頼した結果、県内初確認のキクビスカシバであることが判明した。

※キクビスカシバのフェロモンルアーは市販品が無く、中准教授から提供いただいた。

4 国内での発生状況

平成16年に福岡県で確認されて以降、愛媛県、佐賀県、長崎県、東京都、栃木県、茨城県で確認され、それぞれの都県から特殊報が発表されている。

5 県内の発生状況

- 1) 初確認年月日：令和3年7月8日
- 2) 発生確認地域：東部、中部、豊肥、北部
- 3) 発生確認面積：920a

6 発生生態と被害状況

(1) 形態

本種は同属のブドウスカシバラと比べて大型であり、開張（翅を広げた長さ）は雄が30～40mm、雌が38～45mmである。前翅は赤褐色、後翅は透明で、全体的に黒色であり、腹部第2,4節に黄色の帯がある。

卵は長径約1mmの平たい円盤状で小豆色をしており中心部がややくぼんだ形状をしている。

終齢幼虫の体長は約40mm、頭部および前胸背板は赤褐色、腹部は淡い桃紫色をしている。

(2) 生態

葉柄や枝の基部等に産み付けられた卵は4月頃ふ化し新梢に食入する。幼虫は成育するにつれて、基部方向に移動し、直径3～4cm程度の枝に食入する。性フェロモントラップによる調査では成虫の発生は9月上旬～10月上旬だった（図2）。また、羽化は抜け殻が半分ほど表面に出た形で行われる。

(3) 被害状況

幼虫が新梢に食入すると枯死や伸長抑制等が見られる。幼虫は成育するにつれて、基部方向のより太い枝に移動するが、幼木の場合、太さによっては主幹部に食入することもあり、一周するように食害された場合枯死につながることもある。類似の症状を示すコウモリガの幼虫による食害の場合は、フラスを糸でしっかり綴っており触るとやや粘着質であるため区別が可能である。

7 防除対策

(1) 薬剤防除

①ふ化時期の4月頃（新梢発生5cm程度）に登録のある薬剤を散布する。

（例）フェニックスFL 4000倍 7日前 3回以内

アグロスリン乳剤 1000～2000倍 7日前 3回以内

②成虫発生時期の9月頃に交信攪乱剤を設置する。

（例）スカンバコンL 100本/10a（8g/100g本製剤）成虫発生初期から終期

※上記薬剤の登録内容は令和3年11月10日時点である。

(2) 耕種的防除：6～7月頃園内を巡回しフラスが出ている枝を見つけ切除する。

(引用・参考文献)

1. 窪田聖一ら(2017):植物防疫 第71巻第7号 30～33
2. 栃木県農業環境指導センター(2019):令和元(2019)年度病害虫発生予察特殊報第1号. キクビスカシバラのキウイフルーツでの発生について

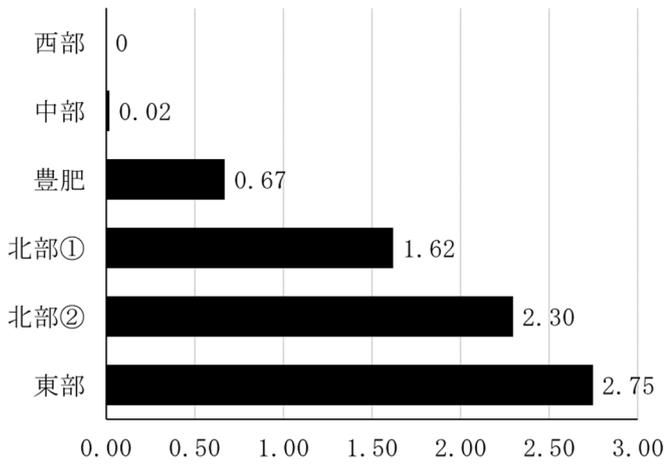


図1 トラップの一日あたり捕獲頭数 (9~10月)

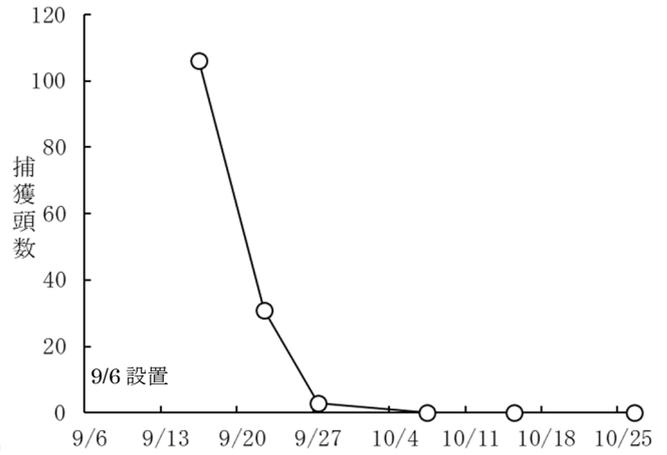


図2 捕獲頭数の推移 (2021,東部)



図3 被害跡 (食害跡と脱皮殻)



図4 産卵された卵



図5 若齢幼虫



図6 トラップで捕獲された成虫